

令和3・4年度 「魅力ある学校づくり」 調査研究事業



富士市立田子浦小学校

令和3・4年度 「魅力ある学校づくり」 調査研究事業



富士市立田子浦中学校
創立76年目 15学級
生徒数 399名



富士市立田子浦小学校
創立144年目 21学級
児童数 599名



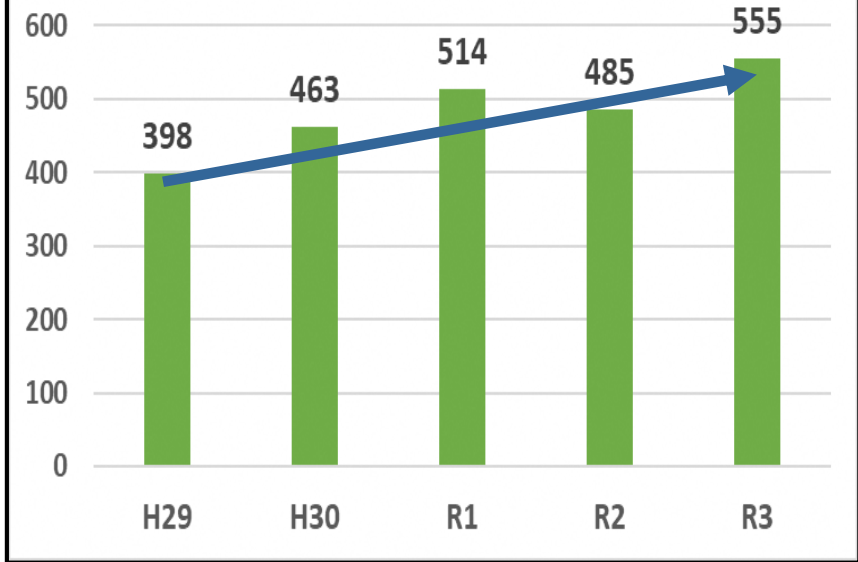
「魅力ある学校づくり」調査研究事業

田子浦小、中・富士市・静岡県・全国の不登校出現率の平均

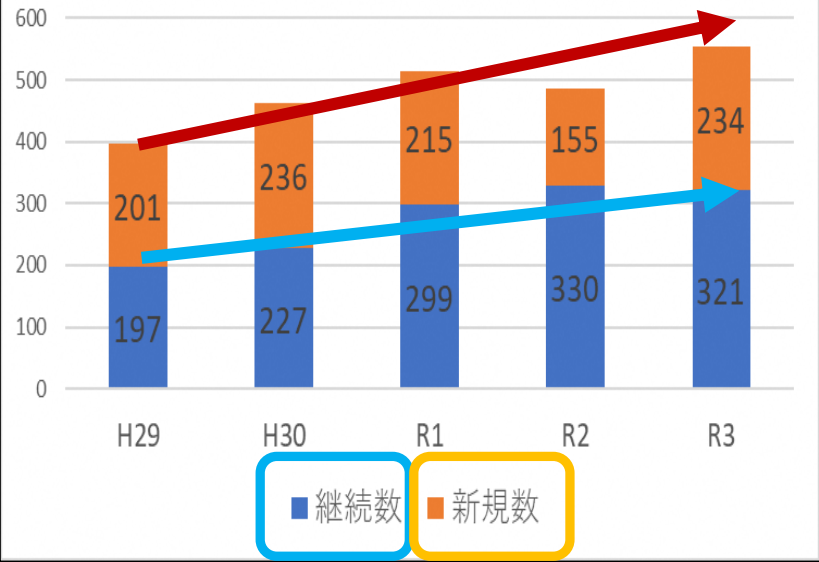
	H29	H30	R1	R2	R3
田子浦小	1.34	1.44	1.55	1.38	1.16
富士市 (小)	0.78	1.01	1.24	1.28	1.39
静岡県 (小)	0.75	0.9	1.05	1.11	1.46
全国 (小)	0.54	0.7	0.83	1	1.3

田子浦中	4.32	6.59	5.91	5.79	6.12
富士市 (中)	4.17	4.87	5.25	4.88	5.73
静岡県 (中)	3.78	4.28	4.68	4.7	5.86
全国 (中)	3.25	3.65	3.94	4.1	5

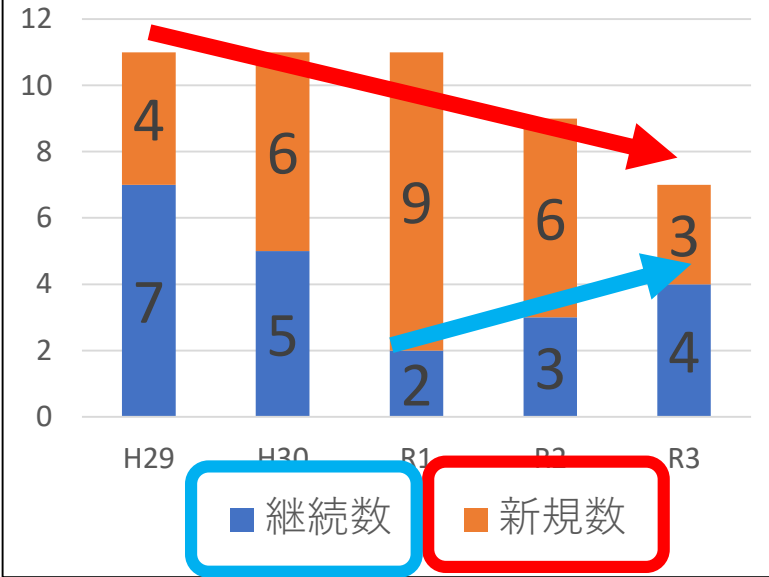
富士市の不登校児童生徒数の推移



富士市の不登校児童生徒の推移（継続・新規数）



田子浦小の不登校児童の推移（継続・新規）



不登校状態が解消される児童生徒がいる一方で、それを上回る数の新規不登校の児童生徒が出現している。

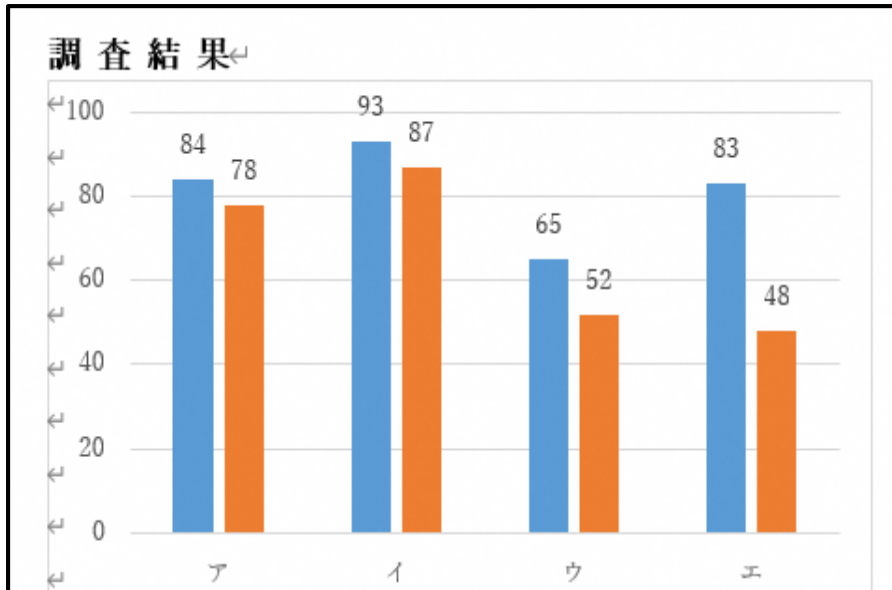
「魅力ある学校づくり」とは、新たな不登校児童生徒を出さないことを目的に、年間を通して、**学校が組織として点検・見直しを進めながら、小・中学校全教職員で行う不登校対策の実践**

「魅力ある学校づくり」に向けての具体的な取組

(1) - 1 1年間3回のPDCAサイクルで実施

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
意識調査	→			意識調査	→			意識調査	→			意識調査
P	D			C	A/P	D		C	A/P	D		C
見直し				点検・見直し				点検・見直し				点検

(1)-2 取組を点検・見直すために子供の声を聞く



(2) 学校での集団指導の取組

学校を全ての児童生徒の心の居場所にする
「居場所づくり」

学校を全ての児童生徒の絆づくりの場にする
「絆づくり」

(3) 不登校児童生徒の支援

田子浦小中学校校内研修

問題解決型
ケース会議のすすめ



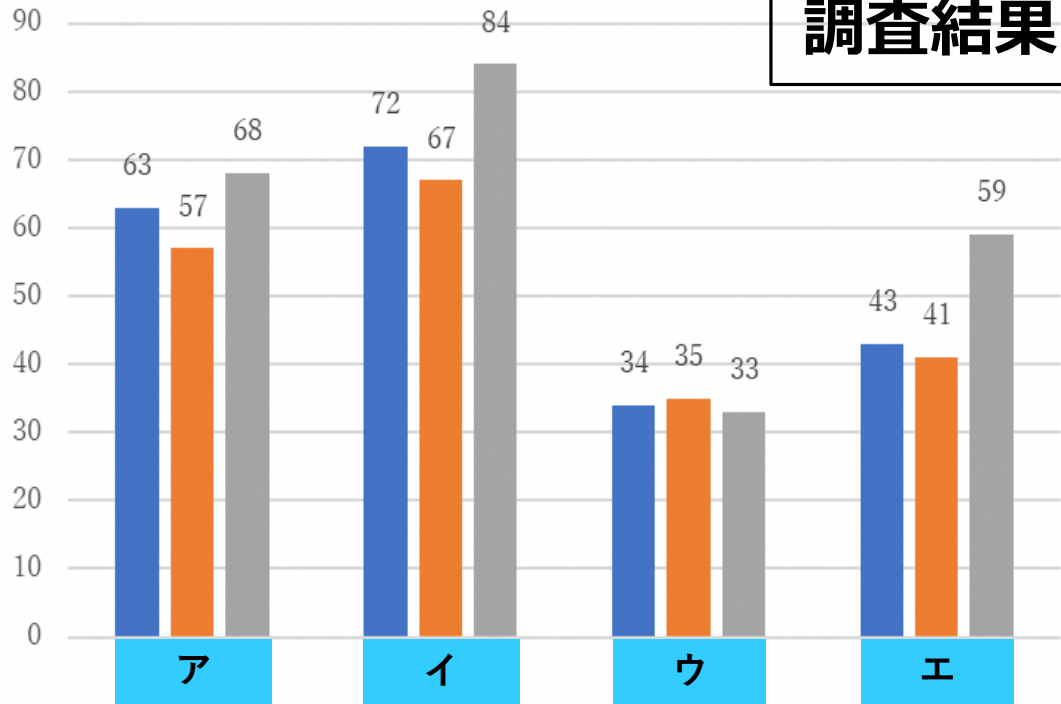
学校がチームとして、支援を検討し、課題解決に向けて、6つのステップで考える。

具体的な実践 (1)- 1

～プランニングシート作成～

取組を点検・見直すために子供の声を聞く

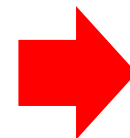
調査結果




- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かするのは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業が良く分かる

- ① 人間関係と学習に絞った質問
- ② 「当てはまる」に焦点化し学年で集計する
(4段階評価で、A評価に焦点を当てる)
- ③ 年間3回行う

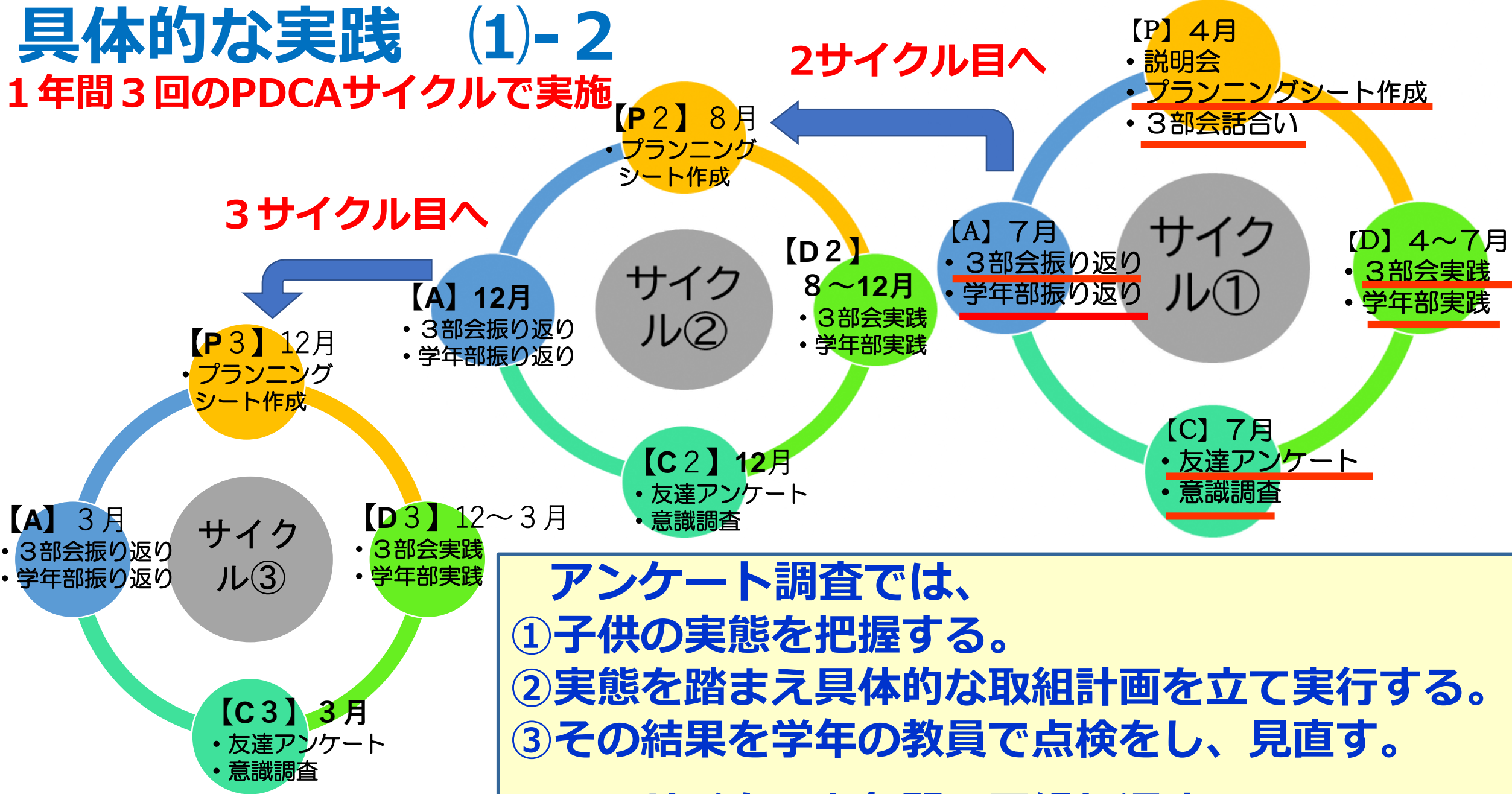
子供の声を客観的に聴くことで
⇒**集団指導の効果の確認**
⇒**“教師の感覚”と“子供の実際”**
とのずれを確認



①**なぜずれたのか、**
②**どこに原因があったのか等**
確認し、
集団としての質の向上を図る。

具体的な実践 (1)-2

1年間3回のPDCAサイクルで実施



アンケート調査では、

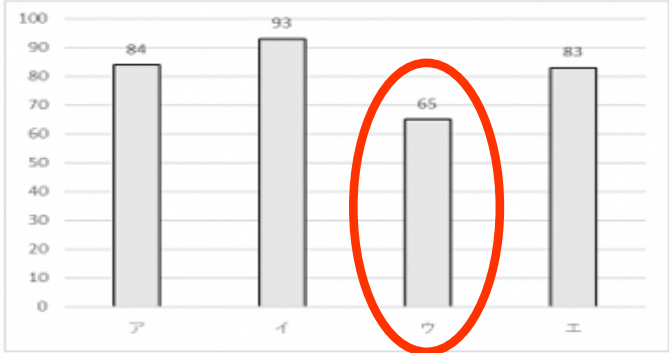
- ① 子供の実態を把握する。
- ② 実態を踏まえ具体的な取組計画を立て実行する。
- ③ その結果を学年の教員で点検をし、見直す。

このサイクルを年間3回繰り返す。

令和4年度 4月作成 (2年部) プランニングシート

プランニングシート (2年)

1 調査結果 (学年別棒グラフなどを貼る)



- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かをすることは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業がよくわかる

2 課題分析 (1の調査結果から分かることだけに絞る)

(ウ) 授業に主体的に取り組んでいる児童が他の項目に比べて少
 授業中、手いたずらをしていたりぼんやりしていたり
 授業への参加の姿が、受け身であるなどが気になる。これ
 結果と結びついている。

- ### 2 課題分析 (1の調査結果から分かることに絞る)

3 目標設定 (2を受けて見直した取組の概要とその結果到達の見積もり数値を設定)

子供の主体的な取り組みを可視化できるようにする。
 「やりたい 知りたい やりしりばたけ」の設置

(ウ) 子供の主体的な姿を掲示していく **70%**

楽しく学習に取り組むことが、「主体性や授業への意欲的な取
 組むような仕掛けを考える。

- ### 3 目標設定 (2を受けて見直した取組と到達するであろう見積もり数値を設定)

4 目標達成に向けて4~9月に重点・強化する内容

「やりたい 知りたい やりしりばたけ」を活用し、子どもたちの「やりたい しりた
 い」と思う仕掛けを考える。

やってみたいことや知りたいことに進んで取り組めるように、自
 りたい 知りたい やりしりばたけ」を提案し、友だちのチャレンジ
 たりしていく。

意欲的に取り組む姿が見られる一方、全体から見ると、一部だけの
 いる。今後「やりしりばたけ」の取り組みを広げていけるように内容の

- ### 4 目標達成に向 けて4~9月に 重点・強化する 内容

5 月別の取組計画 (4 重点強化す

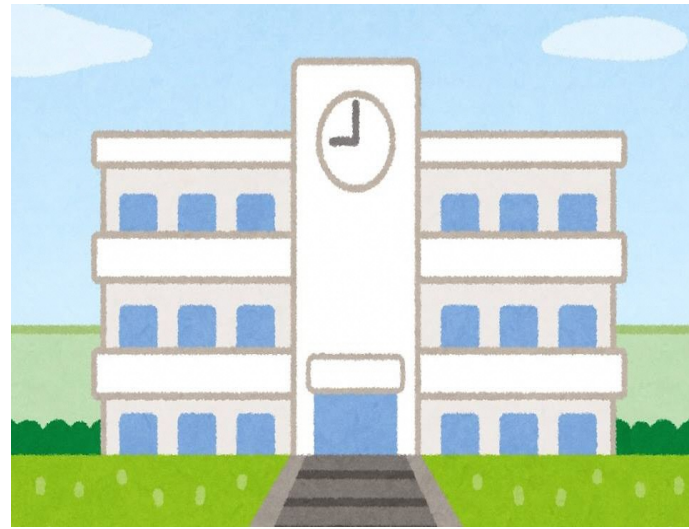
4・5月	<ul style="list-style-type: none"> ・実態を丁寧に見とる。 ・どの子どものびのびと生活できる環境を作るために、ルールを守って生活していこうという意識を一人一人が持てるようにする。 ・授業のルールをできる範囲で、徹底する。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「分からない」と言える、前向きな態度を認める。 ・子供から出た疑問を大切に、授業を組み立て、みんなで解決する楽しさを味わえるようにする。 ・「分からない」子には、個別指導を通して「分かる」うれしさを実感できるようにする。 ・教え合う過程で、互いの良さを知ったり、横のつながりをつくらせたりすることができるようにする。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な聞き方を育てる。 ・友達の発言に対してのよい反応の仕方を広める。 ・友達の良さを広め合う場をつくる。 ・「やりたい 知りたい やりしりばたけ」の活用を広める。
8・9月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、係り活動や当番活動でも、「やりたい 知りたい」を生かして学級作りを進める。

- ### 5 月別の取組計画 (4 重点強化する内容に 関わる事項を記載)

具体的な実践 (2)

学校での集団指導の取組

学校を全ての児童生徒の心の居場所にする
「居場所づくり」



学校を全ての児童生徒の絆づくりの場にする
「絆づくり」

教職員が、児童生徒が安心でき、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供する。

全ての教育活動を通して子供たちは、「自己有用感」を育むことができる。

児童生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく。

「居場所づくり」①

～校長室だよりを通して共通理解～

大そてつ 校長室だより No1

4月12日

黄金の1週間

「学級担任として、こんなクラスにしたい」という事、理想を語る。実践の後、全てのクラスを参観させていただいた。先生方は、「楽しもうがよい」と、どのクラスでも、声も響いて、一緒に考えている様子。保護者の方から、積極的に声を出している様子。子どもたちも、積極的に参加している様子。先生方は、子どもたちと一緒に考え、協力して取り組む姿が、とても印象的でした。

吉田校長の言葉

「学年ごとに計画はなし、理想なきに任せてよし、計画なきに任せてよし、実行なきに任せてよし」とあります。どうぞ、子どもたちに先生方の夢を託してください。

大そてつ 校長室だより No2

4月19日

学校が担う役割

学校は、「子ども一人一人の多様性、個性を認めるが、一人一人の力を最大限に引き出すことが大切であり、子どもたちが伸びる機会、挑戦を促していくこと」が、学校が担う役割です。

人は、人によって愛され、生かされる。

誰もが一人は、愛され、生かされています。

大そてつ 校長室だより No3

4月18日

学級懇談会

子どもたちとお話していただきました。子どもたちとお話していただく機会、ありがとうございます。先生方も、子どもたちと一緒に考え、協力して取り組む姿が、とても印象的でした。

銀の第2週

「黄金の第1週」で作られた『学級づくり、学習づくり』は、子ども一人一人の個性を認める、個性を最大限に引き出すことが大切であり、子どもたちが伸びる機会、挑戦を促していくことが、学校が担う役割です。

大そてつ 校長室だより No5

4月25日

銅の第3週

「黄金の第1週」、「銀の第2週」が過ぎ、今、「銅の第3週」に入っています。

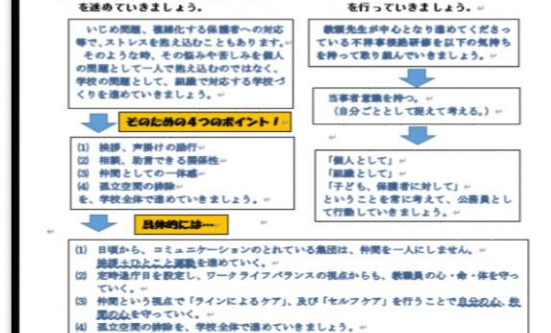
任された活動に取り組んでいる高学年の姿

「素晴らしいです！」

大そてつ 校長室だより No4

4月19日

私たち教職員は、子どもの人格形成に大きな影響を与える職に就いています。



大そてつ 校長室だより No11

4月22日

令和4年度がスタートして、2か月半が過ぎました。

黄金の第1週、銀の第2週、銅の第3週の時に伝えましたが、今の学年・学級の方はいかがですか。

自由の心・心を大切に！

自由の心・心を大切に！

大そてつ 校長室だより No12

6月22日

項目	△	×	評定していきましょう	評定	評定
1. 主体的に学習に取り組む態度					
2. 知識及び技能を習得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに力を使っている					
3. 粘り強い取組を行うこと、自分の学習を調整しようとする意図					
4. 自分自身の学習の強みや得意な科目、得意な教科に力を入れている					

振り返りてりみましょう。

振り返りてりみましょう。

大そてつ 校長室だより No9

6月8日

「主体的に学習に取り組む態度」について

主体的に学習に取り組む態度

『10歳未満の子ども権利条例』

10歳未満の子ども権利条例

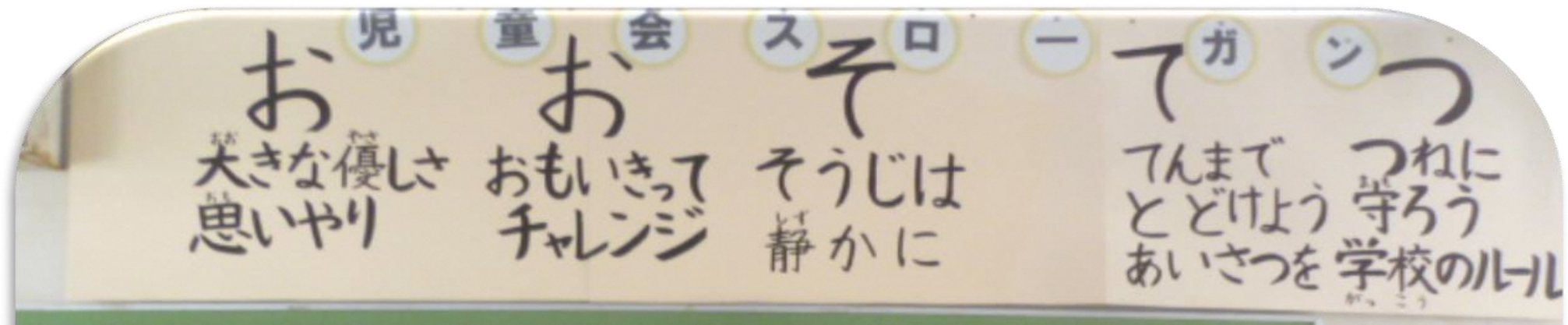
安心・安全な学校生活を送るための「居場所づくり」②

令和4年度防災教育実施計画		田子浦小学校	
6月3日	第2校時 1年生全クラス 場所:体育館 地震や津波のお話に触れよう。(防災紙芝居) ねらい 紙芝居の「体」や絵本の内容に触れ、地震や津波について知る。 準備物 防災に関する電子紙芝居、DVD 講師 防災指導員 高澤様	第2～4校時 2年生各クラス 場所:和室 いざというときの備えを知ろう。(防災カルタ) ねらい カルタを楽しみながら行い、防災について関心をもつ。 準備物 防災カルタ(飯ヶ崎小くわがざき防災カルタ) 備考 1クラスずつ実施。読み上げは担任が行う。	
6月10日	第1校時 5年生全クラス 場所:体育館 命を守る避難行動を知ろう。(DVD) ねらい DVDの「体」を見て、命を守る避難行動について詳しく知る。 緊急地震速報の仕組みと心得について知る。 準備物 DVD(東海地震:その時あなたは?) DVD「命」、地震からあなたと家族を守る 講師 防災危機管理課 統括主幹 久保博司様	第3校時 3年生全クラス 場所:体育館 地震のこわさを知ろう。 ねらい DVD(ずっこけ3人組)を見て、地震の怖さを実感する。次時の家庭内DIGにつながるお話を聞く。 準備物 地震時や地震実験の映像、DVD 家庭内DIGプリント(静岡県危機管理課機器情報課に事前連絡し、送付してもらう(機密)→054-221-3694)	
6月16日	第2校時 4年生全クラス 場所:体育館 なまずの学校ゲームをしよう ねらい なまずの学校ゲームをし、災害時のトラブルを解決する方法を知る。(パワポのDVDを見る) 準備物 なまずの学校ゲームのカード、プロジェクター 備考 1クラスを4グループに分け、計12グループでゲームを行う。	6月20日	第2校時 1年生全クラス 場所:体育館、学校内 学校の防災施設を探そう。 ねらい 学校の防災施設を知り、災害時に危険な箇所について予想したり、地震時の行動(窓)から離れる、机の下にまぐる等)について知ったりする。 準備物 校舎内配置図(学校探検用)、丸シール、防災倉庫の鍵 備考 1年生 地域防災指導員 (3～5名)来校
6月28日	第2～4校時 3年生 場所:和室 家の中の危険な場所を調べよう。(家庭内DIG) ねらい 家庭内DIGを行い、ケガなく安全に過ごす方法を家の人と考える。 準備物 家庭内DIGプリント(保護者と共に記入しておいたもの)、実物投影機、紙ぶるる(耐震用教材) 備考 1クラスずつ実施。 講師 防災危機管理課 上席主事 井出昌志様	6月28日	第2～3校時 4年生 場所:体育館前 防災時の避難方法を知ろう。(煙体験ハウス) ねらい 煙体験ハウスの中を通り、火事の時に慌てずに避難する方法を知る。 準備物 煙体験ハウス(申請→市消防本部警防課 55-2910) 前日取りに行き(教頭先生)前準備。(学年教員) 備考 2校時2クラス、3校時1クラスで行う。 消防署職員に依頼。雨天の場合は、実施しない。
7月11日	第3校時 2年生全クラス 場所:体育館前 地震の揺らしさを体験しよう。(地震体験車体験) ねらい 地震体験車に乗り、地震の揺れを体験して、地震に備える意識をもつ。(2～5年で体験) 準備物 地震体験車(申請→市防災危機管理課 55-2715) 備考 雨天の場合は延期(日程未定) 防災危機管理課 安達彰洋様 鈴木千晶様	7月11日	第4、6校時 5年生全クラス 場所:体育館前 地震の揺らしさを体験しよう。(地震体験車体験) ねらい 地震体験車に乗り、地震の揺れを体験して、地震に備える意識をもつ。(2～5年で体験) 準備物 地震体験車(申請→市防災危機管理課 55-2715) 備考 雨天の場合は延期 防災危機管理課 安達彰洋様 鈴木千晶様
7月15日	第5校時 6年生 場所:体育館 通学路の危険箇所を探そう。(地域DIGの設置) ねらい 地域DIGのための準備の時間とする。 準備物 学区の地図(通学路記入) 備考 学年を地区ごとのグループに事前に分け、市の防災危機管理課の説明を受ける。 講師 防災危機管理課 主査 安達彰洋様	7月18日	第5～6校時 6年生全クラス 場所:体育館 通学路の危険箇所を探そう。(地域DIG) ねらい 地域DIGを行い、自分の地域でどのような災害が発生するのか予想しておく。(ブロック塀、自販機、コンビニ、銀行等) 準備物 学区の地図(通学路記入)、丸シール 備考 各クラス6グループ、計30グループで行う。 講師 富士市防災危機管理課 主査 安達彰洋様 地域防災指導員 (6～8名)来校



計画的な防災訓練によって、「居場所づくり」「絆づくり」につなげる

児童会活動を通しての「絆づくり」①



おおそてつは、田子浦小のシンボルである
樹齢100年を超える大木である

**コロナ禍だからできないのではなく、
コロナ禍であっても作り上げていこう！**

児童会活動を通しての「絆づくり」①

児童会目標

委員会

活動内容

(お) 大きな
優しさ
思いやり

アナウンス

「思いやりボックス」

うれしいことを「思いやりボックス」に入れ紹介する。

生活・安全

「ありがとう作文」

登下校を見守ってくださる方々に感謝の手紙を送る。

給食

「給食記念週間の取り組み」

各学年から日頃の給食に対する感謝を伝える。

(お) 思いっきり
チャレンジ

ワールドギネス
環境

「缶つみ競争」 3人で協力して缶を積み競争をする。

「ボーリング」 3人で協力して手作りボーリングをする。

ミュージック

「クリスマス・フェス」

グループ・学級のいずれかで、ダンスや歌を披露する。

(て) 天まで
とどけ
あいさつ

生活・安全

「あいさつ運動」 朝、正門と東門で元気なあいさつ運動を行う。

「あいさつの木」 あいさつをした人に折り紙を渡し掲示する。

ワールドギネス

「世界のあいさつ」

各国のあいさつをして歩き、放送でその国のことを伝える。

フラワー

「あいさつ しおりの配付」

あいさつがしっかりできた子どもに、花のしおりを渡す。

田子浦プロジェクト

「あいさつくじ引き」

お題が書いてあるくじを引き、学級全体で達成をめざす。

(つ) 常に守ろう
学校のルール

アナウンス

「学校物知りクイズ」

けがをしないために遊具の使い方を、クイズにして確認する。

田子浦プロジェクト主催の「絆づくり」②

「あいさつくじ引き・おおそてつくじ引き」

代表委員 会議案書

おおそてづくりに対してふり返ろう。

～後期にやりたいことをふり返ろう～

前期でもできなかったこと、できなかったことをふり返り、後期にやりたいことを書こう。

夏休み前を振り返り、今後できる活動をおおそてづくりに中心に考える。

10月7日(金)までに授業前のポスターに記入してください。

児童会だより

2022年9月 11日

田子浦プロジェクト 委員 田所 内康

第1回代表委員会で「自分からあいさつ」の意見が多かったので、田子浦プロジェクト委員会であいさつくじ引きを行います。

期間 9/5(月)～9/16(金)

ルール 1日に1回帰りの会にくじを引きます。くじ引きで出たお題について、次の日の帰りの会にふり返りをします。ふり返りをしたらもう一度くじ引きをしてください。

くじで出る内容
このくじでは、笑ってあいさつ、「地域の方(0人)にあいさつ」などがあります。各クラスからのお題や、そてつくん、そてかちゃんからの挑戦もあります。

全クラスから、「あいさつくじ引きのお題」を募集し、学校全体で、この活動を行う。

毎日たくさんまとめた2週間の人においさふり返りを書いてつができた。下さい。

みんな頑張っ
ていこう!!

(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
5	6	7	8	9
20人	27人	15人	27人	27人

<ふり返りカード>

9/5(月)～9/16(金)

5(月)	6(火)	7(水)	8(木)	9(金)
同じ学年の 人においさつ (15人以上)	(校長先生か) えいやくして あいさつ (5人以上)	(3-2) 男女6人お にあいさつ	(ひまわり) 生活安全委員 会においさつ (1人以上)	(5-1) 自分から 目をあわせて あいさつ (10人以上)
人数(にんすう)	人数	人数	人数	人数
24	27	15	27	27

会釈であいさつ：5人以上

14(水)	15(木)	16(金)
通りがかった まわりの席の 人においさつ (3人以上)	(6-1) 自分から 3種類以上の あいさつ (3人以上)	(2-1) えがおで あいさつ (4人以上)
人数	人数	人数
29	27	27

自分から3種類のあいさつ (おはよう、こんにちは、さようなら)

2週間のふり返り

できなかったお題
男女6人ずつにあいさつ

簡単なお題
自分から3種類以上のあいさつ

感想
いろいろなお題があっ
て楽しかった。いろいろな
あいさつがあいさつがで
きた。あいさつが広まった。
あいさつがふえた。これ
からもあいさつがふえて
低学年の人にもあいさつ
ができた。

田子浦プロジェクト主催の「絆づくり」②

「あいさつづくじ引き・おおそてつくじ引き」

犬そてつくじ引きカード 4年2組

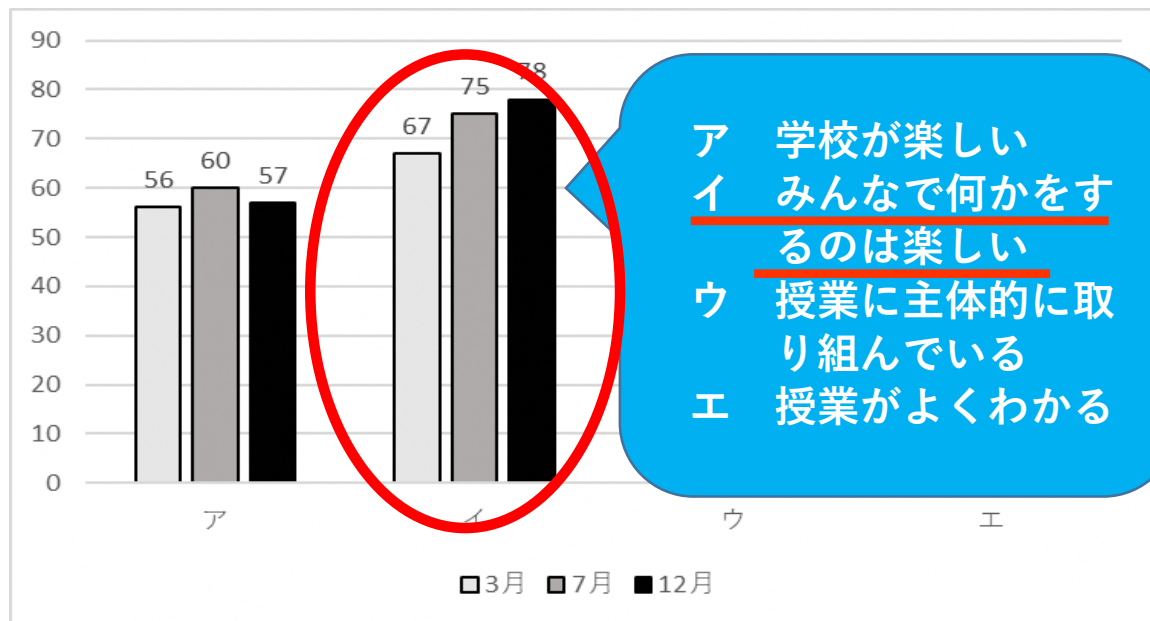
お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	<p>絆づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お題を達成できたらうれしかったからこれからがんばりたい ・うたや歌をきいたときとても楽しかった。 ・お題を達成できなくてもがんばって思った。 ・7日のそうじをみんな全集中でがんばっていた。
1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	
お題 つ 1月16日 なる前に席につく 3回以上	② 犬そてつくじ引き お題が ていねいな言葉で あいさつ (5回以上)	② ていねいな 言葉であいさつ (5回以上)	お 犬そてつくじ引き 「ありがとう」 をいう。 (5回以上)	② おじぎを しなからあいさつ (5回以上)	
/	26 / 28 人	24 / 26 人	25 / 28 人	20 / 23 人	
お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	お・お そ・て・つ	
1月23日	1月24日	1月25日	1月26日	1月27日	
お 犬そてつくじ引き お題をあげる	て 自分から	お 苦手なものを にチャレンジ	そ 全集中で 犬そてつくじ引き (5回以上)	お 考えをもっ て手をあげる (3回以上)	
				10 / 27 人	

子供たちが発案した
『おおそてつくじ引き』

『絆づくり』に向け
た子供主体の活動

「絆づくり」③ 5年部の実践

縦割り活動の報告・共有と幼稚園訪問



ア 学校が楽しい
イ みんなで何かをするのは楽しい
ウ 授業に主体的に取り組んでいる
エ 授業がよくわかる

5年部の実践（令和3年度の実践より）

<総会学習>

- ・グループで学習を進め、活動を報告・共有する。
「みんなで何かするのは楽しい」という思いをもつ

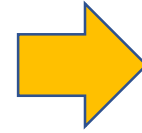
<幼稚園訪問>

グループごと小学校の紹介、クイズ大会
相手意識をもちながら、協働して企画・運営を行う。

具体的な実践 (3) 不登校児童生徒の支援

問題解決型ケース会議

- ☆ 子供の抱える課題を明確化する。
- ☆ 学校がチームとして支援する。
- ☆ 子供の課題の解決に向けて、次の6つのステップで考える。



- 1 問題の明確化
- 2 本人の長所、強みの確認
- 3 目標の設定
- 4 考えられる問題の背景の検討
- 5 支援の方法
- 6 達成課題と評価基準

基本的な考え方

- ① 子供はみな、**学ぶ力**を持っている。
- ② 学習や行動の問題は**環境の相互作用の結果**として生じる。
- ③ 生徒の個人的特徴だけでなく、**環境や指導方法**にも焦点をあてる。

② 本人の強み

支援で役立てられそうな本人の「強み」を探します。

- ・料理が得意
- ・好きなことには集中できる
- ・集めることが好き
- ・仲の良い友達がいる



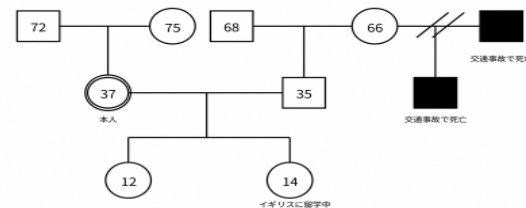
支援のヒントを探る
肯定的な要素で話し合う

会議の進行の仕方

ジェノグラムの作成

① 問題の明確化

- ① 男性は「四角」、女性は「丸」
- ② 中心となる本人は「二重のマーク」
- ③ 家族状況でわかることはできるだけあげる。



③ 目標

- ① 2~3か月で変わってほしい姿を、具体的で肯定的な表現で具体的に考えます。
- ② いくつか出た案の中から、今回目標とする案を選びます。

- ・伝えたいことは言葉で伝える。
- ・教室を出る時は、担任にその旨を伝える。
- ・クールダウンの方法を見つける。

- ① はじめの3ステップがとても大切。(これらをいい加減にしないこと)
- ② 強みの確認が大切。「子供はみな学ぶ力を持っている」と考える

校内問題解決型ケース会議 (令和4年度 小中合同以外に9回行う)

年 組 氏名 (**A児**) 記入者 (ハッ木 詠美子)

①学校内での問題 (程度、様子)

6月3日から戻る
 画面がしなるとか、画面の授業には来れない。
 (時)
 ・仲の良い子と一緒にいて、ニコニコしている。
 ・引こみじみして自分以外の人のこと。
 ・食が細い。

③目標 (2~3か月後の姿、具体的に)

登校すること (送迎は祖母) 祖母、付かない
 ・(朝は自分が決めているので) 5時間目の参加 長期目標
 ・日曜日で決める ← 自分で選択した。
 ・菊义田の探検へ誘う 短期目標
 ・SC、本の貸出を継続

⑤支援方法 (いつ、どこで、誰が)

日曜日で決める リモートを使う
 帰りが遅いので、日曜日の朝() 時間内に入校(したい) したいが、あんなに遅い
 ・リフレックス(1日と着替けての入室) 支援

②長所 (支援上、役立ちそうな事)

・タブレットで勉強 菊は受け
 ・物づくり好き
社会科に興味 社会科探検参加
 ・明るい印象、優しい たぶん発表した
Teamworkを目標にするのは、楽しかった。
 ・足が速い
 ・字法は少し伸びている。

④考えられる問題の背景等

・仲の良い友だちとクラスが離れてしまっている。
 ・会った時に話しかけた(仲良し)
 ・一人で留守番(独り食い) 一人
 ・緊張しやすいタイプ

⑥達成課題と評価基準

10/14 5時間目登校した
 ↓
 6月より登校を渋り始める
 7, 8, 9月: すべて欠席
 10月のケース会議後の出席状況
 10月: 遅刻5日, 11月: 遅刻9日, 12月: 遅刻11日
 遅刻であるが、登校できる日が増えてきている。
 1月: 朝から登校14日

田子浦小・中学校の連携 教職員 及び 児童生徒



小中連携①

～問題解決型ケース会議～

小中連携問題解決型ケース会議		
★は小学生 ☆は中学生	中学校先生	小学校先生
場所：南校舎 3階 6-3	大木	山浦
小・由かえ希望		三村
★2 Aさん		酒井
★5 Bさん		達哉
☆2 Cさん		長谷川 P
場所：南校舎 3階 6-4		高木
小学校から希望		湯澤
★4 Dさん	中山	中田
☆3 Eさん		松田 P
場所：南校舎 2階 6-2	長尾	小野
小学校から希望	有城	古部 P
★5 Dさん		
☆3 Eさん		
場所：南校舎 2階 3-1		
小学校から希望		
★6 Fさん		
☆3 Gさん		
場所：南校舎 2階 3-2		
中学校から希望		
★3 Hさん		
★6 Iさん		
☆2 Jさん		
場所：南校舎 2階 3-3	山島	平野 P
中学校から希望	長谷川	高橋
★2 Kさん	中井	後藤
★4 Lさん	岩本	
☆1 Mさん		
☆2 Nさん		

★印：小学生
☆印：中学生

小中両方に通っている子供について、小中の関係教員で問題解決型ケース会議を開いた

1. 問題 気になること

- 3年 難化するほど時間 (母にべたべた) 教室に入れない、車から降りたくない
- 4年 5月頃からしどろしどろ始まる。廊下を過す (1時間目-給食前) 何もしない、全く知識がない。ホームルーム時間 母に言いながら

2. 目標

- 3. 支援方法
- ベテランレラップ (教員ペア)
- 母親を支援し、母親の意向に従う
- 別室を用意しておく (パーテーション(室内))

4. 強み 長所 (本人) 気持よく、大人気な。給食後にはしゃがむ (母親も自慢)

5. 苦しみ 原因 他人の前で (父の前で) 得意なことに挑戦する。母：物の取っかかり、想像のバリエーション、まがつかない。本人のしどろしどろ

6. 関係する関係者

本人の望みを優先して、肩に力を入れない (無理難題扱い) 何と学習したい (情アリ)

人間関係、困難あり、学友、気遣い、家庭支援

このまま支援対策にはなっていない

学校から 家庭から

学校に付いて 家庭について

友達が多い (他者の関わり) 学校に行きたくなるが、勉強への情報も足りず、暴言が出る

発達障害 (英語が苦手) 陸上選手 (練習) 自然の練習

周りの友人や先生で月1回、読書好き

事件後、同登校 (母のカウンセラー) 集団に入れない → 本音は誰も聞けてない (別室に飛込は、受身の担任の投げかけ (母と面談))

自己主張がない、せめては仲が良い、ホケモンをやっている

7. 支援方法

- 毎日声をかけている (学年の見守り)
- 子どもと話しあっている (学習の動機付け)
- 他者との関わり (宿題、給食後の活動など)

8. 達成課題と評価基準

本人の希望を優先して、肩に力を入れない (無理難題扱い) 何と学習したい (情アリ)

人間関係、困難あり、学友、気遣い、家庭支援

1. 学校内で起きている問題 考案

- 人と関わりたくない
- 5年生の時、体育は参加しない (10分程度) フラフラ
- 体育時間もぐっとフワフワする
- 意校が遅い (8:05に登校)

2. 長所 強み

- 5年生の時にも体育は参加している
- 得意なことはできる (母親もX X?) 体育は好き (本人も)
- 自分から進んで取り組む (得意なこと)
- やることはしっかりやる (真面目)
- やさしい 話しやすい (64で話した)

3. 目標

- 3. 支援方法
- 毎日声をかけている (学年の見守り)
- 子どもと話しあっている (学習の動機付け)
- 他者との関わり (宿題、給食後の活動など)

4. 達成課題と評価基準

本人の希望を優先して、肩に力を入れない (無理難題扱い) 何と学習したい (情アリ)

人間関係、困難あり、学友、気遣い、家庭支援

小中連携②

～教員合同研修（年間3回）・魅力担当者会議(月1回)～

R3年度（魅力1年目）

R4年度（魅力2年目）合同研修4回（夏：2回）

4月

- ① 2・3月のアンケート結果や1週間の子供のあらわれをもとに、いいところ、課題、目標と具体策を話し合う。

- ① 今年度の各部会の活動を、心の居場所づくり、絆づくりのどちらの活動になるのか振り分ける。理由も考える。
- ② 共有したことで気付いたこと、新たにできそうなことをまとめる。

8月

- ① 6・7月のアンケート結果をもとに、自分たちの支援を振り返り、12月までの目標と手立てを練り合う。
- ② 講話「不登校児童生徒の理解とその対応」
常葉大学准教授 太田 正義 先生

- ① 小中の現状をアンケートから考察し、「12月に期待する子供の姿」の目標を共有。その後、小中各部会に分かれ、手立てや内容の見直し、加除修正を行う。
- ② 小中合同問題解決型ケース会議
(小中学校に関係している6つのケースを行った)
- ③ 講話「不登校と特別支援教育」
静岡大学教育学部 山元 薫 先生

12月


- ① 12月のアンケート結果やこれまでの子供のあらわれをもとに、年度末へ向けて、いいところ、課題、目標と具体策を話し合う。

- ① 各部で小中共通のねらいや手立てを検討して、共通の目標を立てて魅力ある学校をつくる。

講師：静岡大学 山元 薫 准教授

令和4年度 富士市立田子浦小中学校

「不登校と特別支援教育」 先生方のご質問に答える形で



静岡大学教育学部
山元 薫

1

質問への回答項目

- ①子どもの感情のコントロール
- ②最近なんとなく学校に行けない子どもたち(コロナ禍を経験した子どもたちに起こっていること)
- ③多動な子どもたちへの支援
- ④ASD(又はADHD)+知的障害 の特徴
- ⑤保護者対応(障害受容、支援受容)
- ⑥思春期のADHD? ASD?

2

⑤保護者対応(障害受容、支援受容)

多くは、保護者の不安、怒り、戸惑いが原因であることが多い

親の不安の解消、安心へと変えるアプローチ(正しい情報、欲しい情報が手に入る)

子どもの教育的ニーズ
=学力をつけること
その学年で最もいい教育を受けて、学力をつけること

30

①子どもの感情のコントロール

情動調整のタイプ 情動調整の方略


自己調整 自分の中で情動を調整	}	行動方略 床に寝転ぶ
相互調整 他者を媒介にして情動を調整		言語方略 「ざんねん！」
		メタ認知方略 今度、頑張ろう

3

ASDの子どもたちの困難さと支援 (気持ちの切り替え、情動調整編)

ASDは「情動」を調整する能力の発達が阻害されている

適性な情動域:適切な情動の範囲という視点が重要



○単に気分を盛り上げればよいのではなく、情動を高めすぎて過剰な興奮にならないような配慮や沈静的な関わりをすることが重要
○適切な範囲にとどめられたり、逸脱しても戻せたりすることを調整と呼ぶ(宇佐川)

4

⑥思春期のASD、ADHD

本人は、友達と仲良くしたい、楽しく過ごしたいと思っています。

メタ認知の弱さ
他者の意図を理解することの弱さ
「おもしろい」の概念・受け止めに独特さ
情動を調整することの弱さ
指摘を受けること=攻撃をされたという意識

32

小中連携④ ～小中学校教育目標「自分から」に向けての合同研修～

第2回8月小中合同研修会 ～指導部会～ ワークシート
氏名 (研修部)

●アンケートの結果から、田子浦地区の子供たちの現状を分析

研修部

【どんな姿を目指しますか？】
ペアワークが中心で、授業に参加しているという意識を高めるようにする
→「主体的～」 「みんなが何かに～」の項目をUPする

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)

●目指す姿に迫るように、「居場所づくり」「絆づくり」の視点から、12月までの活動の流れや手立て等を決めよう。

【その姿に迫るように、どの教育活動どのように取り組むことにしましたか？】
・グループ活動、ペア活動からできる限り取り入れ、話し聞かせ高めることに。
・みんなが何かに参加しているという意識を高める(→主体的な活動を取り入れる)
・子どもたちが自分で進んでいると思える授業づくりができるように、内容の精選、ポイントをはきながら教員の構想から見直し
・自分の意見を出せるように、認められるように授業展開、質問の機会を設ける

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)

●目指す姿に迫るように、「居場所づくり」「絆づくり」の視点から、12月までの活動の流れや手立て等を決めよう。

【その姿に迫るように、どの教育活動どのように取り組むことにしましたか？】
・グループ活動、ペア活動からできる限り取り入れ、話し聞かせ高めることに。
・みんなが何かに参加しているという意識を高める(→主体的な活動を取り入れる)
・子どもたちが自分で進んでいると思える授業づくりができるように、内容の精選、ポイントをはきながら教員の構想から見直し
・自分の意見を出せるように、認められるように授業展開、質問の機会を設ける

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)



第2回8月小中合同研修会 ～指導部会～ ワークシート
氏名 (特別活動部)

●アンケートの結果から、田子浦地区の子供たちの現状を分析

特別活動部

【どんな姿を目指しますか？】
・不登校の子が「行きたい(この活動下でも)」と思える。
・自分の居場所や役割の役割、みんなに活かせる姿。
・自分の意見を出せるように、認められるように授業展開、質問の機会を設ける

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)

●目指す姿に迫るように、「居場所づくり」「絆づくり」の視点から、12月までの活動の流れや手立て等を決めよう。

【その姿に迫るように、どの教育活動どのように取り組むことにしましたか？】
・グループ活動、ペア活動からできる限り取り入れ、話し聞かせ高めることに。
・みんなが何かに参加しているという意識を高める(→主体的な活動を取り入れる)
・子どもたちが自分で進んでいると思える授業づくりができるように、内容の精選、ポイントをはきながら教員の構想から見直し
・自分の意見を出せるように、認められるように授業展開、質問の機会を設ける

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)



第2回8月小中合同研修会 ～指導部会～ ワークシート
氏名 (生徒指導部)

●アンケートの結果から、田子浦地区の子供たちの現状を分析

生徒指導部

【どんな姿を目指しますか？】
・不登校の子が「行きたい(この活動下でも)」と思える。
・自分の居場所や役割の役割、みんなに活かせる姿。
・自分の意見を出せるように、認められるように授業展開、質問の機会を設ける

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)

●目指す姿に迫るように、「居場所づくり」「絆づくり」の視点から、12月までの活動の流れや手立て等を決めよう。

【その姿に迫るように、どの教育活動どのように取り組むことにしましたか？】
・グループ活動、ペア活動からできる限り取り入れ、話し聞かせ高めることに。
・みんなが何かに参加しているという意識を高める(→主体的な活動を取り入れる)
・子どもたちが自分で進んでいると思える授業づくりができるように、内容の精選、ポイントをはきながら教員の構想から見直し
・自分の意見を出せるように、認められるように授業展開、質問の機会を設ける

【そのために、どの項目に重点を置きますか？】
イとウを連動させて考える(重点を置く)



小中連携⑤

～研修部～

目標

- 協働する場面を意図的につくり、コミュニケーション能力を高める

具体策

- 全体・ペア・グループでの聴く・反応することの定着
- タブレットの有効性を探る。
- ほどよく難しい課題の設定
- 振り返りやグループ学習のルールづくり

学習ものさし

分かって聴き 分かりやすく伝える

聴き方	目指す子ども像	伝え方
<ul style="list-style-type: none"> ◎課題(論点)に、か考えながら聴く。 ◎自分の考えを深めるために、共感的に聴いたり批判的に聴いたりする。 ◎友達のことを理解し、自分の言葉で表現できるように聴く。 ◎聴いた内容に基づいた相談をすることができるようになる。 ◎聴いた内容を復唱できるように聴く。 ◎聴いた内容と自分の思いに合わせた反応をしながら聴く。 ◎自分の考えと比較しながら聴く。 ◎うなずいたりつぶやいたりしながら聴く。 ◎友達の話を聴きながら聴く。 ◎話す友達の方を見て聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題(論点)に、か考えながら聴く。 ◎伝えたい相手に合わせて言葉や表現方法を選んで伝える。 ◎他者が伝えたいことを簡単に書く。 ◎図や表、ジェスチャー、例えや自分の経験などを活用して伝える。 ◎事実と意見を区別して伝える。 ◎友達の反応を確かめながら伝える。 ◎友達の考えをふまえて自分の考えを伝える。 ◎学習の振り返りに、講師・聞き手や感想・意見を友達の名前を入れながら伝える。 ◎伝えたいことを明確にし、結論→根拠の順で伝える。 ◎場にあった声の大きさを伝える。 ◎友達の方を見て伝える。 	

分かって聴き 分かりやすく伝える

★学習ものさし★低学年

こんなことができると、いいね!

聴く

- 1 **はんのうしながら** 聴こう
- 2 **さい後まで** 聴こう
- 3 **はなひとほう** **話す人の方を見て** 聴こう

伝える

- 1 **はつるんーりゆう**

分かって聴き 分かりやすく伝える

★学習ものさし★高学年

こんなことができると、いいね!

聴く

- 1 **「なるほど」「そうそう」と** **受けとめながら** 聴こう
- 2 **「それでいいのかな?」「どうして?」**と **考えながら** 聴こう

伝える

- 1 **友達の反応を確かめながら** 伝えよう
- 2 **図や表、ジェスチャー、例えや** **自分の経験などを活用して** 伝えよう
- 3 **学習の振り返り(分かったこと・思ったこと)を** **キーワードを使って** 書こう

- ◆聴き方・話し方・まとめ方・授業づくり
 - ・9年間を見通し各学年での目標の設定
 - ・目標を各学級に掲示。
- 【居場所づくり・絆づくり】

- ◆大学の教授を招聘して研修(年2回)
 - 魅力ある学校づくりと方向性を揃え、
 - 講師：早稲田大学 藤井教授
 - 「一人一人を支える授業づくり」
- 【居場所づくり・絆づくり】

9年間の縦のつながりを意識した指導

- ★子どもの理解を促し、単元の内容をより深く理解した授業構想
- ★教科の系統性や横断的な学習を意識した指導
- ★基礎・基本の確実な定着
 - ・モジュールの時間の活用
 - ・効果的な指導(ICT活用)
- ★学習スキルと規律を身につける
 - ・「目指す子ども像」を子どもと共有
 - 「学習のきまり」
- ★家庭学習の充実「家庭学習のすすめ」
- ★個の考えを確かにする
 - ・統一されたノート指導
 - ・一人学びをする時間の確保
- ★言語活動の推進・読書力の向上・辞書活用
- ★外国語科(外国語活動)・プログラミング教育・NIEの充実
- ★学びを継続させるための学習の振り返り
- ★学校図書館の活用と読書活動
- ★小中連携(目指す子ども像の共有と研修の方向性の統一)

子ども理解にもついた授業

温かい人間関係・認め合う仲間・豊かな感性

これからの時代に求められる資質・能力の育成を目指して・・・

①「子どもの姿が見える」単元構想 ②「問いに寄り添う」見取りと関わり ③「学びの共感」の共有

小中連携⑥

～生徒指導部～

目標

具体策

居場所づくり
自己肯定感を高める

- ・ 友達のよいところ見つけ。
- ・ 教師が手本となりあいさつを続けに広げていく。
- ・ あいさつを通して、人とのつながりを作る。



◆友達の「よいところ見つけ」 【絆づくり】

①各学級での取り組む

方法は学級ごとで決め、朝や帰りの会に場を設ける。

②アナウンス委員会の「思いやりBOX」常時活動

子供たちの優しい行動を放送を通して称揚する。

◆「あいさつ運動」 【絆づくり】



小中連携⑦ ～児童・生徒の連携～

小中
あいさつ
運動

◆生徒会と児童会が交流し、小中あいさつ運動
を行っっている。絆づくり、中学校への安心感
にもつながっている。 【絆づくり】



小中
交流会

年間2回開催

1年間を通して、小中で取り組めることの確認

◆小中学校のそれぞれの活動について伝え合う
・小学校：「おおそてつ」に向けた委員会の活動
・中学校：生徒会で決まったルール、蒼波祭
中学校の紹介 【絆づくり】



総合
学習
発表会

◆中学、総合学習発表会(11月)
見学を通して、今後の学びに見通しを持つ。
中学生の主体的に学ぶ姿を実感する。
中学生に憧れを抱き、希望を持つ。
➡中学校への入学の希望を高める。 【絆づくり】

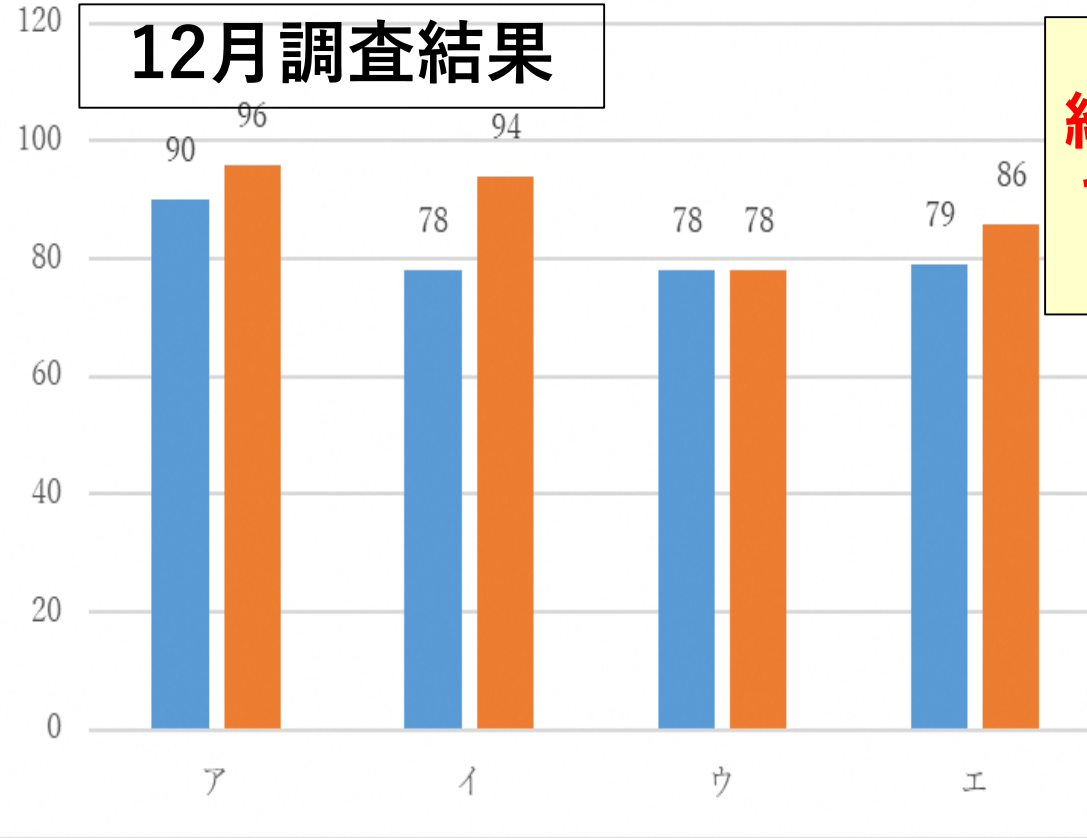
1年生の実践より

居場所
づくり

一人一役の係の活動

自分たちで振り返り、みんなのために頑張り、役に立っているという思いを膨らめ所属間を高める。

12月調査結果



絆
づくり

学年集会や生活科などの取組

グループ活動や学年活動を多く取り入れ「絆」を意識した子供が主体となる活動を進める。

学年集会：「七夕集会」「お月見集会」「節分集会」
生活科：「あきまつり」「四季しぜんビンゴ」

- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かをするのは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業がよくわかる

＜他学年との交流＞

縦割り活動以外にも、6年生と交流できる場を設定したことで、自然とお互いに交流する場面が増えた。

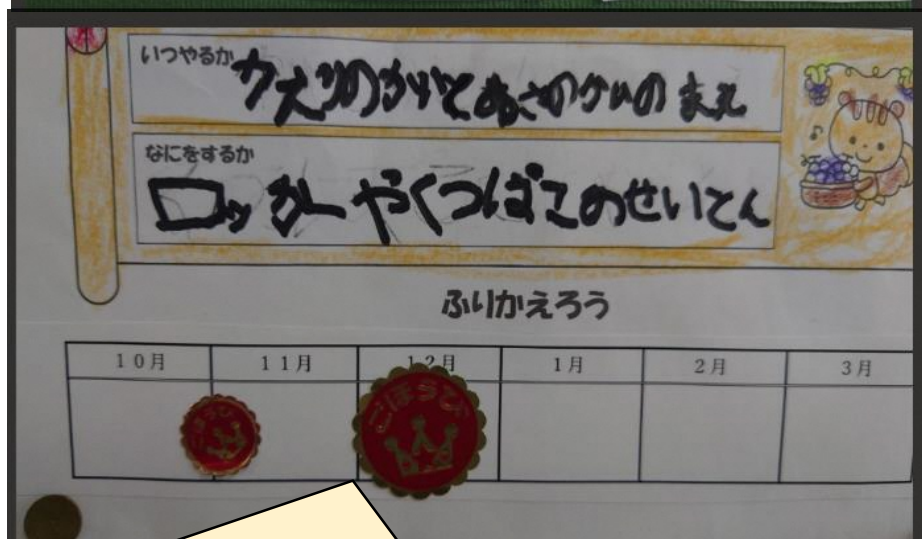
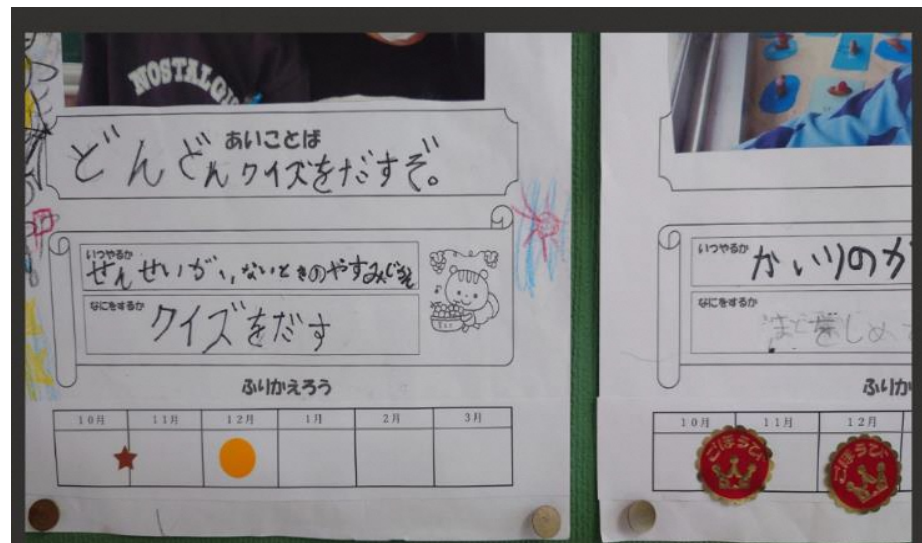
自己決定生活科「あきまつり」では、単元の導入に、秋の実を使って遊びや工作を行った。その中で、自然と周りにいる友達と相談しながら、遊びを工夫した。その過程で、「学年みんなで遊びたい」という思いをもち、「あきまつり」へと繋がった。
「あきまつり」では、各グループで遊びの計画・運営を行った。遊びの内容やルールなど、どうすれば友達を楽しんでくれるか試行錯誤しながら、お店を仕上げた。あきまつり本番には、友達が喜ぶ姿を見て、「準備が大変だったけど、頑張ってたよ。」という思いをもつことができた。※写真2

学年集会では、1年生なりに、こんなことをやってみようという思いを大切にしながら、沢山の友達が一緒に遊ぶにはどんなことができるか、みんなができるものは何かを考えながら話し合い、準備を行った。準備の段階でも、一人一役を意識しながら取り組み、「みんなで集会を成功させたよ。」という、達成感を味わうことができた。

授業づくり国語の読む授業では、子供たちに単元の中でどんなことを学んでいくのか見通しをもてるように、導入部分で「つきたい力」を子供たちと一緒に確認し、同じ土台に立って学習をスタートできるようにした。教師の支援がなくても、自分で考えたことを書き込んだり、疑問をもったりすることができるようになった。作文の授業では、作文したものを友達と読み合ったり感想を書いたり伝えたり、また、お家の人に感想を書いてもらったりすることで書くことへの自信へとつながった。

どの授業でも、「聴く・話す」の基本を大切にしてきた。子供たちから出てきた反応の言葉や分かりやすい話し方を提示し、いつでも意識できるような環境づくりを行ってきた。※写真3

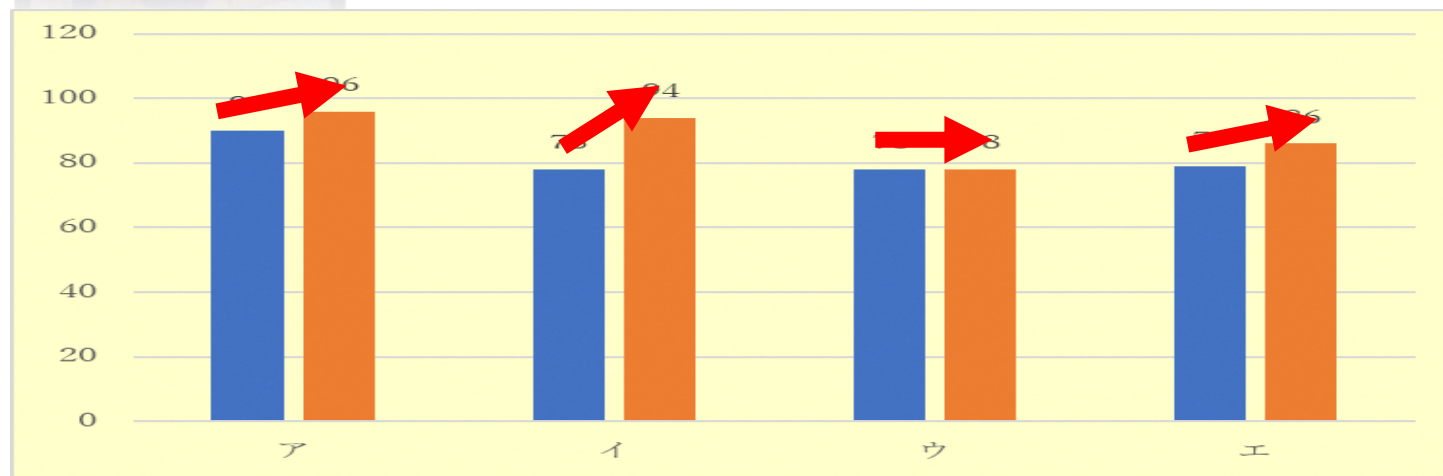
1年生の実践より



回数を追うごとに評価が高まり、みんなの役に立っているという思いを膨らめた。



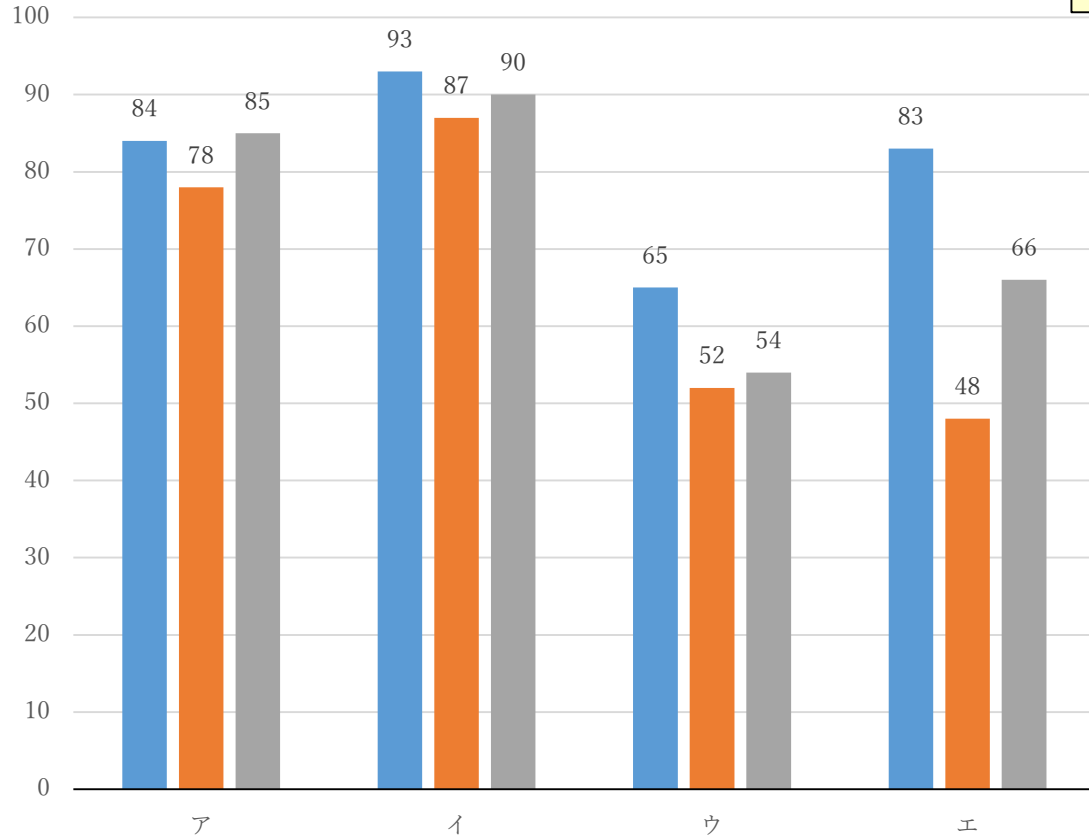
子供たちが主体となる活動を後押し



2年生の実践より

自己決定の場づくり

12月調査結果



- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かをするのは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業がよくわかる

① 係のアイデア大切に

② 学年集会

➡ 「やってみよう」を実現する

③ 「やり知り学習のススメ」

➡ 「やりたい、知りたい」気持ちを大切に

○絆づくり

- ロイロノートの共有を使って、協力して発表原稿を作る作業を取り入れた。それぞれの考えを理解し合いながらよりよい発表になるように高め合う様子が見られた。→授業づくりにも

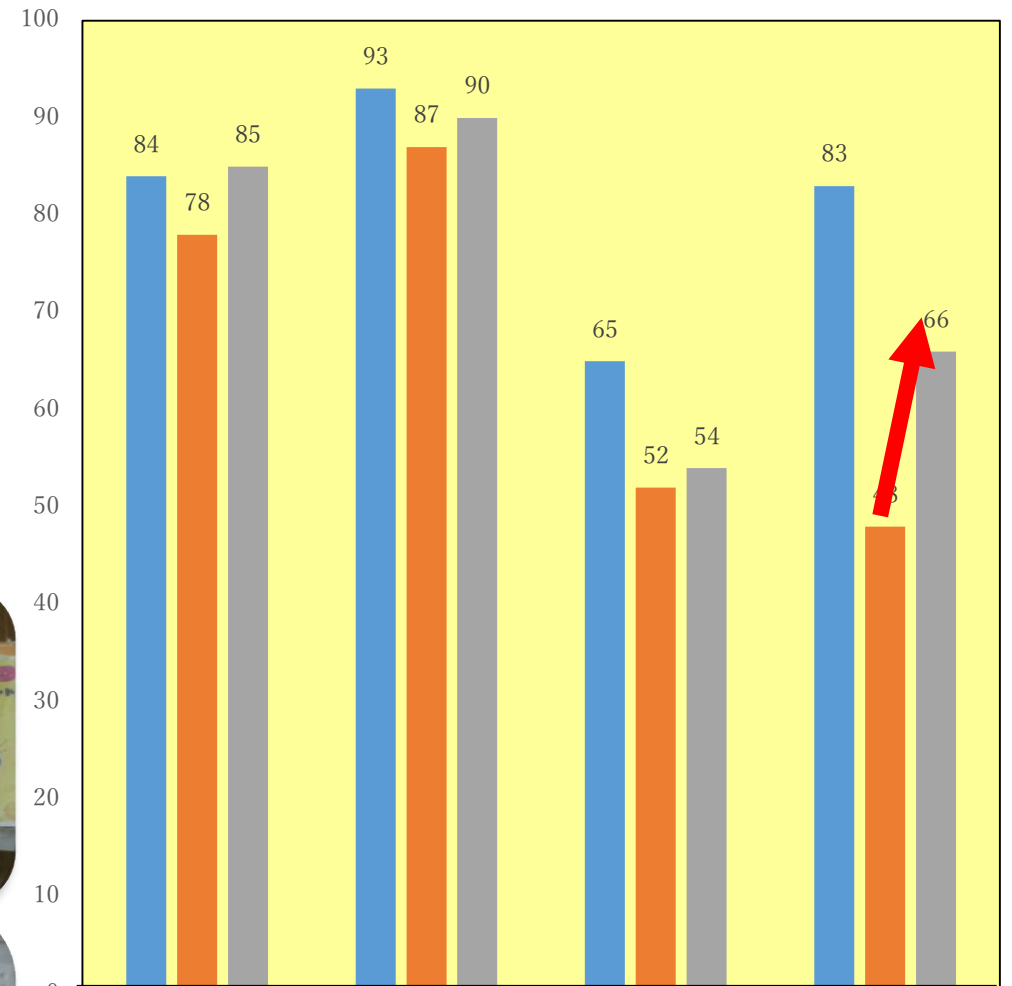
- グループとグループを繋げて活動する場をつかった。
体育のボールゲームや生活科の発表に向けての準備の際、ペアグループ同士で交流し、アドバイスし合うことで、互いを高め合う様子が見られた。
→授業づくりにも (※写真…生き物の紹介)

○自己決定の場づくり

- 係りごとにアイデア活動を考え、昼休みなどにイベントを開催した。
「あれはだめ、これはだめ」ということを極力なくし、「やってみよう」と思うことをできるだけ実現できるように支援した。 (※写真…○○係)
- 学年集会は、学年みんなが仲良くできる集会を目指して、自分たちの考えで進められるよう支援した。 (※写真…学年集会)
- 自主学习「やり知り学習」を提案し、「やりたい・知りたい」と思ったことを思ったときに学習できるように、プリントとファイルを用意した。学年途中からは、タブレットによるドリル学習や道具・なわとびなどの運動などにも範囲を広げて取り組めるようにした。

○授業づくり - 子供たちが、今どこに向かって学習しているのかが分かるように単元構成を工夫した。国語では、言語活動を取り入れ、「パンフレットづくり」に向けて登場人物の考えを読み取ろう、「図鑑をつくる」ために順序や様子に気をつけて読もう、「音読劇」に向けて場面や人物の様子をくわしく読もうなど、目的をもって学習に取り組めるようにした。

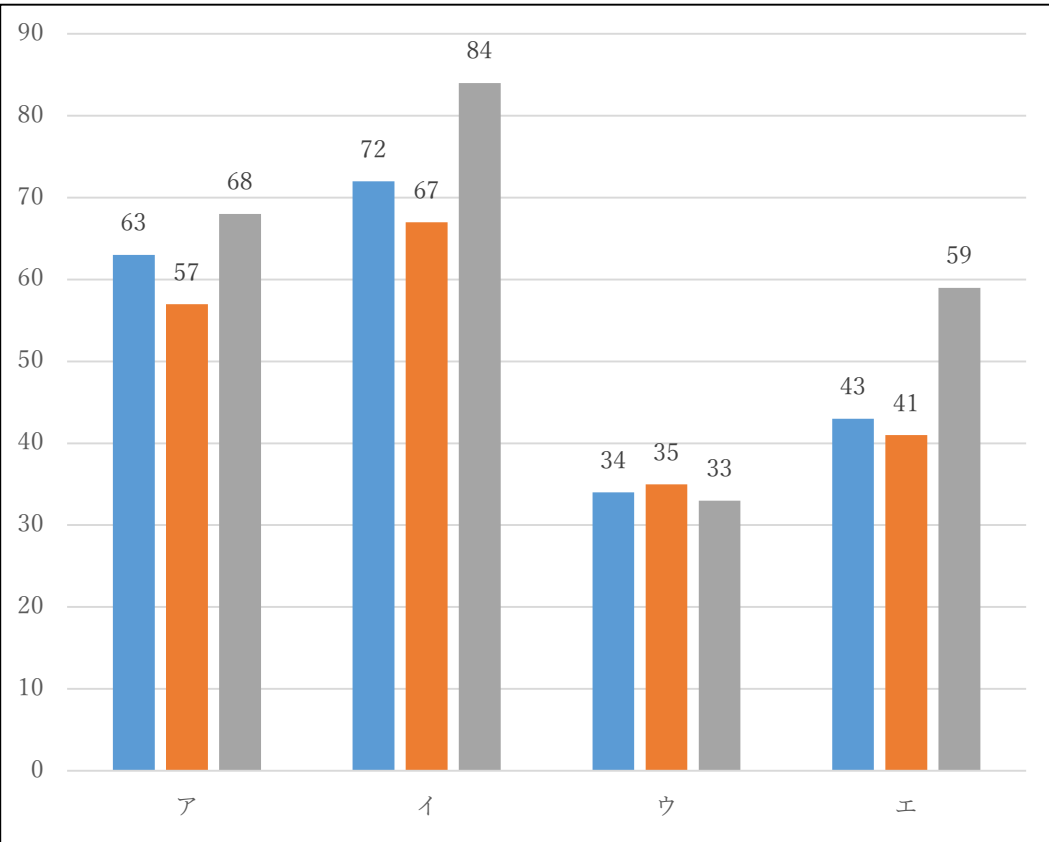
2年生の実践より



- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かをするのは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業がよくわかる

3年生の実践より

12月調査結果



- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かをするのは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業がよくわかる

絆
づくり

お互いを大事にする。認め合っていく。



「あなたは、あなたでいい」
友達を尊重できる関係になってきている

授業
づくり

体験活動を多く取り入れる。
(学区探検、菊畑見学、お店探検)



個で課題を見付け、個やグループで追究

○絆づくり

- ・年に3回の学年集会 … それぞれのクラスのアイディアを活かした楽しい集会
- ・総合的な学習の発表会 … クラスの中だけで終わらせず、リハーサルと発表本番、違うクラスへの友達に、客として発表を聞いてもらい、アドバイスやよかったところを伝えてもらうようにした。クラスメイトではない友達に褒められることにより、より大きな自信につながった。
- ・毎日のクラス内での「いいこと見つけ」…お互いを大事にしていくこと、認めていくことにつながっている。「あなたはあなたでいい」と相手を尊重できる優しい子供が多い。
- ・係活動…同じ係の子供たちと、いろいろなアイディアを出し合い、協力して、今までになかった新しいことを始めている。生き生きとした表情で活動している。【写真②】

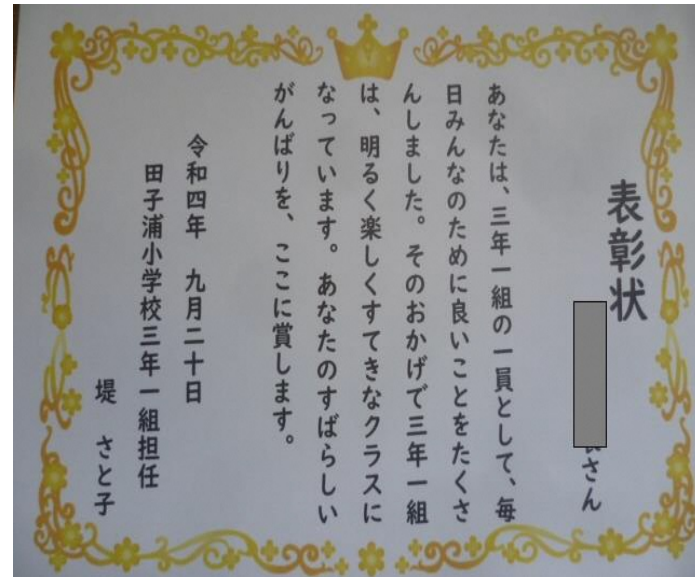
○自己決定の場

- ・自主学習を始めた。…週末の宿題を担任が決めずに、自分で選ぶ形にした。(漢字、算数、読書、ローマ字、日記、その他の中から2つ以上) ⇒ 自分の好きなことを深く学習する子、自分の苦手手を補うためにドリル的な学習をがんばる子、日々の学習に遅れがある子は、週末の宿題で追いつくように…など、個々に自分で決めて、自分のために頑張る姿が見られた。【写真⑤】
- ・総合的な学習の時間…課題を自己決定。発表の形も自己決定(タブレット、ポスター、本など)【写真⑥】
- ・係活動…活動が決まっている「黒板係」「電気係」「配達係」だけでなく、自分の好きや得意を活かすことができる係…「イベント係」「工作係」「新聞係」などを自分たちで考え、そこで自分の力を発揮。教師や友達に頼らず、自分で判断して、みんなのために、クラスを盛り上げるために取り組んだ活動。学級委員が自分たちで話し合いの内容を提案。【写真⑦】

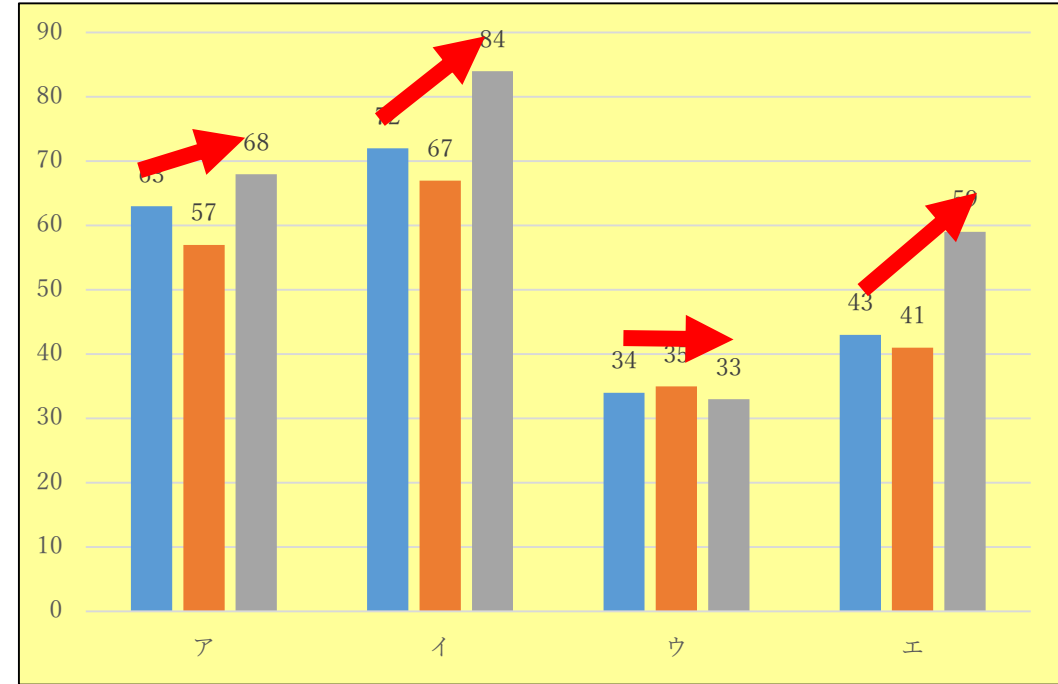
○授業づくりの中で工夫してきたこと

- ・これまで、田子浦地区東西南北への校外学習、菊畑の見学、農家の出前授業、マックスバリュの見学など、社会科を中心として、実際に自分の目で見て学ぶ体験的活動や、身近な地域の方と直接会話をすることができるような活動を多く取り入れた。このことにより、子供たちは教室での座学以上の学びに対する満足感を得られたと考えられる。【写真③】
- ・上記のような体験的活動から、個々に興味をもったことを課題として、総合的な学習の時間で

3年生の実践より



12月調査結果



- 年間3回、子供の声を聞くことの大切さ**
- ① 計画を立て実行しても、そこには、ずれが生じる。
 - ② “なぜずれたのか”、“どこに原因があるのか”検討する。
 - ③ “教師の感覚”と“子供の実際”とのずれを確認し、**新たな計画を立てて、実行する。**

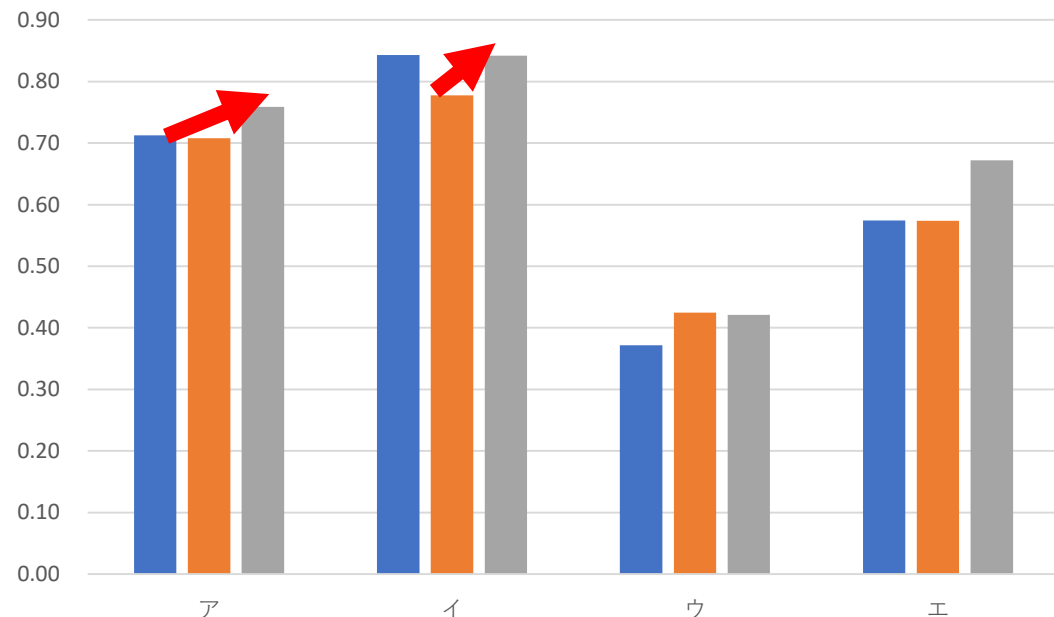
「居場所・絆づくり」に向けた実践『ひまわり学級』

～学級経営方針：個に寄り添う、互いに高め合う～



全学年の実践より

プランニングシート 調査結果 (R4)



居場所
づくり

- ① いいことを見つけ
- ② ほめほめシャワー
- ③ 温かい言葉かけの実践
- ④ 5つの誓いの意識化

絆
づくり

- ① 係活動の活性化
- ② 朝の会のトークタイム
- ③ 学年集会を活用
- ④ 学級活動の活性化
- ⑤ 構成的エンカウターの実施



トークタイム



「居場所・絆」につながる学級活動



エンカウター

授業づくりが学校づくり ①

令和4年度 指導の重点

富士市教育委員会学校教育課

「ふじの教育」
基本方針

「一緒に学ぶ 一生学ぶ」

めざす子供像

学びを楽しむ

子供理解



個別最適な学び・
協働的な学びの充実

指導と評価の
一体化

「子供の姿が見える」
単元構想

「問いに寄り添う」
見取りと関わり

「学びの実感」
の共有

主体的・対話的で深い学びの実現

確かな学力

- ・習得、活用、探究による学びの深化
- ・読解力の強化
- ・情報活用能力の育成
- ・学習習慣の確立

豊かな心

- ・温かな人間関係づくり
- ・多様性を認める心づくり
- ・考え議論する道徳科の授業実践
- ・読書活動の充実

健やかな体

- ・スポーツライフの実現
- ・安全教育の充実
- ・健康教育、食育の推進
- ・生活習慣の自己調整

小中一貫教育

9年間を見通した教育活動

コミュニティ・スクール

家庭・地域との連携・協働



頼もしい教職員

学習指導力・生徒指導力

特別な配慮や支援を必要とする子供への対応力・ICT活用能力

社会に開かれた教育課程

教育の原点は、「子供理解」です

これまでの学校訪問では、コロナ禍であっても、ICT等を積極的に取り入れるなど、学び合いを工夫する中で、丁寧に関心を持って子供に寄り添う姿、子供の思いを大切にしている授業に数多く出会いました。「子供理解」を原点とした富士市の指導の重点が意識されていることを感じました。令和4年度も子供が学びを楽しむ授業づくりを目指してまいります。

「子供の姿が見える」単元構想 *船の模型で学ぶ歴史*

単元を構想する際には、学びの足跡や子供の姿を踏まえつつ、学習指導要領に示された育成を目標とする資力・能力を、単元や本時での「付けたい力」として、目の前にいる子供の具体的な姿で明らかにします。

単元を通して、子供自身が獲得の知識や技能を活用し、自分の考えをつくる、多様な考えや情報に触れる、それらと比較、分析、整理することなどを通して、自分の考えを再構築する場面を、子供の思考過程に沿って適切に設定します。教師自身が学び手の視点に立ち、教材や題材を向き合う中で、子供がどう学ぶかを豊かに想像しながら、子供の姿が見える単元を構想してまいります。

「問いに寄り添う」見取りと関わり

あれっ、「どうなっているの」「確かめたい」「もしも、」でっ」「だって、など、子供から生まれる自然な言葉や表情、しぐさは、生活経験や学習事項、友達との考えとの関わりが生き生きと表れます。それこそが「真の問い」を生み出す点になります。

教師は、そうした子供自身が学びに向かおうとする姿を確実に見取り、声を掛け、価値を付ける、広げる、つなげる、焦点化するなど、適切な関わりをすることが大切です。そのことによって、子供は思考をより活性化させ、深く、主体的に学んでいきます。

子供はふたふた不慣れです。異なる考え、感じ方を大事にし、その楽しさを引き出すことで、より深い学びが生み出されるように支援していきましょう。

「学びの実感」の共有

「分かった」「できた」「もっと〇〇したい」「まだ分からないな」「うまくできないのはなぜかな」「やっぱりそうだった」「今度はこうしよう」等の言葉は、子供が学びに夢中になっているときに表れます。その際、学習用語を適切に使用した内容の「まとめ」や、*振り返り*、自己の姿勢と向き合う「振り返り」を意図的に設定することで、子供自身が学習したことの意味や価値を実感できるようにします。それを教師が「見取り、理解し、価値を付ける」等、子供と共有することで、子供は自分の学びを確かに実感するとともに、粘り強く取り組む意欲や自身の成長を感じ、更なる学びへの意欲や学習を調整する力を育てていきます。

このような子供の学びや定着の様子を確実に捉え評価する中で、半立てや計画を見直す、値の支援を充実させる等、自らの指導を改善し、「指導と評価の一体化」に取り組んでまいります。

すべての子供たちの可能性を引き出すために、授業や単元における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け長年改革に取り組まれました。そして、子供と共に学ぶ楽しさを味わい、生涯を通して学び続ける子供を育成してまいります。

※本教員研修を履修して習得される資力・能力、子供の理解と関わる実力・態度、本教員研修実践に実施して求められる教育・教材、教材の活用方法、教材の活用方法に関する資料

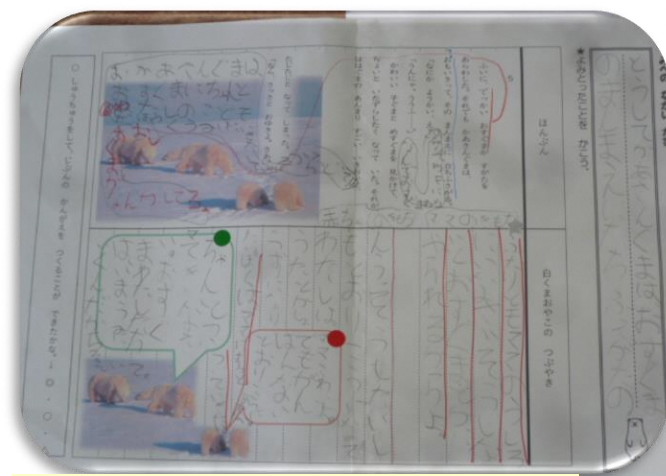
gokufu

小・中学校教育目標「自分から」の姿をめざした授業③



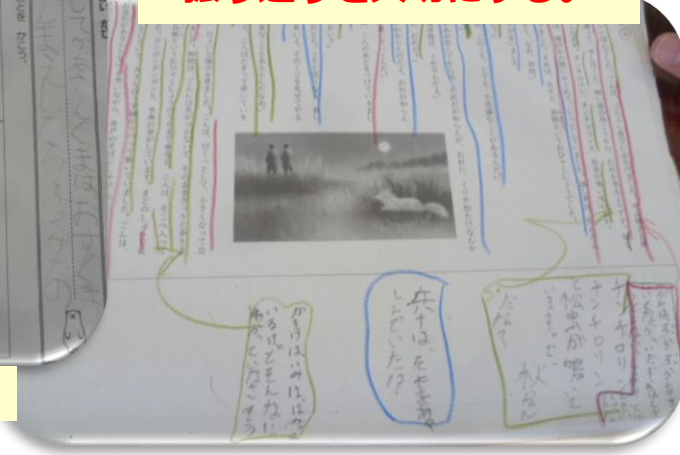
「学習の足あと」

次の学習に生かして学びを深める



「一人学び、ノート指導」

自分の考えに自信を持つ。振り返りを大切にする。



「ペア学習、グループ学習」

グループの話し合いで認め合い、学びを深める



ICT機器の活用
自分の考えに自信を持ち、友達の考えを大切にする。

